

創立 110 周年

繋がれてきた同窓生の絆 そして未来へ

明治四十一年四月に福岡県下七番目の県立中学校として産声をあげた福岡県立八女高等学校は今年創立一一〇周年を迎えます。

この同窓会新聞は、創立一〇〇周年を記念して、前年の平成十九年十二月二十五日に創刊されました。それまで、同窓会が新聞を発行したことがあるのか定かではありませんが、念願の同窓会新聞の発行でした。創刊号は白黒の四ページで、同窓生全員に配布されました。二号からは、カラー刷りで紙面も六ページとなり、購読者を募り有料で年二回発行してあります。



題字 山口修二氏(高14回)

同窓会新聞

第 16 号

発行日/平成30年5月25日
発行/八女中・八女高同窓会
TEL(0942)53-4184 FAX52-0341
編集/八女中・八女高同窓会事務局
〒833-0041
福岡県筑後市大字和泉251
福岡県立八女高等学校内

しかし購読者数が伸び悩んだこともあり、十号からは、年一回の発行とし、多くの同窓生に読んでいただけるように、同窓会総会や支部総会に参加された同窓生へ無料で配布することとなりました。

また、サイズも持ち帰りに便利なように現在のようなA四サイズとなりました。そしてなにより皆様にあいさすされる同窓会新聞であり続けるために内容についても刷新されました。

現在はこの新聞作りに大同窓会の当番幹事の皆様に積極的に関わっていただくことで、魅力ある新聞を目指しております。

この、同窓会新聞には、同窓生等の特集記事、大同窓会、支部活動、学校の近況等が掲載されています。創立一一〇周年の年にあたり、あらためて、この新聞を振り返りますと、この十年間の同窓会のあゆみや学校の様子が垣間見られます。特に大同窓会は当番幹事によりその年の同窓会のテーマが決められますが、このテーマは私たちの同窓会への思いが凝縮されているように思えます。

その時々々の当番幹事の皆様の熱い思いが、一一〇年の軌跡が、感じられます。

そして皆様方の思いが同窓会の繁栄を生み、また、資金不足になり消滅しそうになった同窓会奨学金

大同窓会テーマ

(平成二十年度から三十年度)

- ・ありがとう母校
その輝きは永遠に(高31回)
- ・次世代を担う
後輩達を応援したい(高32回)
- ・再会 2010
あこのころの私たちへ(高33回)
- ・繋 (高34回)
- ・縁 (高35回)
- ・原点回帰(高36回)
- ・不亦楽乎亦た楽しからずや(高37回)
- ・軌跡くそして未来へ(高38回)
- ・出会いに、感謝。(高39回)
- ・face to face
旧知の新知に逢う(高40回)
- ・COME TOGETHER!(高41回)

を支えてきたように、物心両面から生徒を支え続けています。この八女中・八女高大同窓会に集結することで、同窓生の変わりない時間を楽しみ、時代に対応する八女高校を応援する大きな力になっていきます。

このように同窓会新聞では、新しい十年の歴史を感じることができました。

一一〇周年記念事業

昨年度から、学校、同窓会、PTAで、創立一一〇周年記念事業実行委員会が組織され、記念事業等について検討されてきました。

そして次のような事業が実施されることになりました。

一、八女高校サポート基金の設立

すでに昨年皆さまのもとに趣意書等を送付し、募金にご協力をお願いさせていただいているところで、これは、創立一一〇周年を記念して、今後十年間にわたり八女高校生の高校生活を支援し、広く母校の隆盛を図ることを目的として基金を設立したものです。

支援内容

電子黒板等の設置

(学校のICT環境の推進)

同窓会奨学金への支援

(奨学金の充実)

生徒海外研修への支援

(グローバルリレーション対応)

※まだ、当初の目標額に達しておりません。趣旨をご理解のうえご協力をよろしく願います。



二、記念事業

(1) 校旗の補修及び準校旗の作製

校旗の劣化が激しかったため、補修を行うとともに、準校旗を作製しました。



(2) 本校設立貢献者

田中慶介氏の顕彰物の作製



田中慶介氏は、明治三十年に八女郡長に就任し、八女中学校の創立のために中学教育の必要性を郡内各層に説き、その実現を先導されました。その功績を末永く顕彰するために銅

ブロンズ画を作製し校内に設置いたします。

(3) 記念野球招待試合



毎年五月に実施している八女工業高校との野球部定期交流戦がタマホームスタジアム筑後で招待試合として行われる予定です。

① 開催日時

平成三十年五月二十一日(月)

② 参加者

八女高校及び八女工業高校生徒・職員・PTA・同窓会、地域住民

(4) 芸術鑑賞

生徒が毎年二年次に行う芸術鑑賞を全学年で行います。

① 日時

平成三十年六月十四日(木)

十三時三十分開演

② 演目

劇団四季「リトルマーメイド」

③ 場所

キャナルシティ劇場

三、記念式典・記念講演

日時 平成三十年十一月三日(土)
会場 本校体育館

【記念式典】 十時開式
【記念講演】 十一時開始
講師

全日空機長 塚本真己氏(高33回)

2011年当時、最新鋭のB787の開発にANAのパイロット代表として携わり、ライセンスを世界で初めて取得。ANAの導入1号機を日本まで、操縦してこられました。

四、記念誌作成

一一〇周年からの十年間の八女高校のあゆみや一一〇周年記念事業の記録等を掲載します。
※記念式典当日に出席者に配布予定

今年度、実施される様々な一一〇周年記念事業が八女高校の新たな伝統を作り、更なる飛躍をもたらしてくれることと信じています。

福岡県立八女高等学校創立110周年記念 八女高校サポート基金募金 概要

募金目標額 3千万円

寄附金額

【個人】一口 5千円

(ご都合に応じ、金額にかかわらず有り難く頂戴いたします)

【法人】【団体】指定なし

募金期間

平成29年7月から平成30年6月まで
※平成30年7月以降も募金は受け付けていきます。

払込方法

ゆうちょ銀行の払込用紙によるお振込



同窓会会長 下川 泰 (高2回)

会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

本年、八女高校は明治四十一年開校以来、着実な歩みを続け、一一〇年を迎える事になりました。誠に喜ばしい限りです。今年三月、70回生二三〇〇名が卒業し、同窓会会員は実に二万九〇〇〇名に達しました。同窓各位は、国内外でそれぞれ大いに活躍され、名を馳せられた方も多数おられます。本年も母校の学力検査の競争倍率は一二倍以上を維持し、筑後南部地方の高齢化・少子化・人口減の中、学級数減もなく、よく健闘しているところです。

この一一〇周年を迎えるにあたり、当窓会は、学校・PTAと連携を図り、過去の周年行事同様、一一〇周年記念事業を計画・立案し、その実施に向けて同窓会実行委員会を立ち上げ、目下、作業を進行させているところです。主な内容は、記念式典行事(十一月三日)、学校設立に貢献された田中慶介氏の顕彰物設置、校旗の補修と準校旗作成、八女高校サポーター基金募集(目標額三〇〇〇万円)への支援、同窓会奨学金の拡充、海外研修への支援、校内ICT機器の整備、写真を主体にした目でめぐる一一〇周年誌、そして同窓会会員名簿発行などです。

学校サポーター基金については既にご承知のことと思いますが、前述したように学校活動を活性化し、この少子化となった時代に学校を維持、発展させるためには、どうしても一定の資金が必要になります。同窓会の決算書を見ていただければお分かりのように、現在は新しい会員(卒業生)の入会費、総会チケットの売上金の一部などが収入であり、ほとんど余裕がない現状で、新しく原資を創りださなければなりません。ご推察いただき、どうぞ奮って基金へご協力いただきたく願います。

尚、五月二十七日(日)は、41回生当番で恒例の大同窓会が行われます。どうぞ、万障お繰り合わせの上、ご出席いただき、



八女高校校長 別府 尚樹

連携と親睦を深めて貰えれば幸いです。以上、学校の維持、発展を願い、書かせていただきました。

感謝

昨年度に引き続き八女高専で、校長を勤めさせていた方には日頃から格別の御支援と御理解を賜っていますこと心から感謝申し上げます。特に、経済的に厳しい生徒を対象とした奨学金給付事業やグローバル人材の育成を目指した海外研修への補助、関東支部における東京研修のお世話等々、多大なる御支援を頂いておりますところ、八女高校サポーター基金の創設など新たな支援体制を整えていただき、学校を代表してあらためてお礼申し上げます。同窓会諸氏の貴重な御支援の数々は、まさに「百年の繁栄を願わば人を育てよ」という故事に則したものと感動いたしました。

さて、学校の近況につきましては、去る三月一日、下川泰同窓会会長、副会長であるらます蔵内勇夫県議会議員をはじめ、多くの同窓会役員の方々の御臨席を賜り、第七十回卒業証書授与式が挙行され、二、三〇〇名の卒業生が母校を巣立っていきました。そして、入れ替わるように、四月七日には、73回生二四〇名の新入生が入学し、新年度がスタートしました。今年度は創立一一〇周年の年にあたり、記念式典をはじめ記念誌の発行や各記念事業も計画されております。是非とも皆様にも母校へ御来校いただき、創立一一〇周年を共に祝していただければ幸いです。今後とも私も職員一同、本校の益々の発展のため、一丸となって尽力する所存です。

結びに、八女中・八女高同窓会の更なる御発展と会員皆様の今後の御活躍・御健勝を祈念申し上げますとともに、心からの感謝の意をお伝え申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

支部だより

◆関東支部

関東支部総会・懇親会

支部長 塚本 享 (高19回)

【face to face 旧知の新知に逢う】のテーマのもと、平成二十九年六月十七日(土)、総会・懇親会が神田一ツ橋の「喜山倶楽部」にて、下川同窓会会長・別府校長など四名の来賓と二九〇名の同窓生が集い、盛大に開催されました。同級生と顔を合わせれば直ぐに気分は高校時代、懐かしい人たちの再会で笑顔、また新しい繋がりを見つけては「良かった!」と、心満ちたひと時でした。「地元クイズ」「45回生野田徹さんのミニライブ」「現役高校生からのビデオレター」等のイベント、更にお土産には「テーブル毎の記念写真」と、当番幹事(高40回)のおもてなしで、出席者を大いに楽しませてくださいました。平成三十年は六月九日(土)に開催です。母校創立一一〇周年の今年、更に盛り上がりそうです。



その他支部活動報告
関東支部では、当番幹事を交えた運営役員会議や学年幹事会開催の他に、会員懇親目的で二回の「東ゆうかり会(ゴルフコンペ)」開催、「在校生東京研修(毎年八月初旬)」における「若手OBとの懇談会」「企業研修」「大学訪問」等での同窓生有志の協力、等と応援団(毎年二月)や「東京八女ふるさと会(毎年十月)」等の地元関連イベントでは受付や進行の手伝い等の支援活動も行っています。今年度分の報告は、開催の都度発行の「関東支部便り」で広報活動しており同窓会本部のホームページにも掲載しています。是非ご覧ください。



◆福岡支部

もっと楽しく、もっと有意義に

支部長 加藤 久 (高25回)

平成二十九年、八女中学・八女高校同窓会福岡支部総会は、平成二十九年九月二十二日、博多駅近くの「八仙閣本店」において、下川泰同窓会会長、別府尚樹校長、大塚高典同窓会副会長、城戸英敏同窓会幹事長をはじめ約九十名の参加者で盛大に開催されました。記念講演として、同窓生でもあり、幅広い分野で活躍されております株式会社MIKIファニッシュ代表取締役の太刀山美樹様より「質実剛健から学んだ、何度でもチャレンジ精神」と題して経験に基づく迫力のあるお話をいただきました。

参加者は例年より若干少なかったのですが、非常に盛り上がり、お帰りになる際の皆様の笑顔が非常に印象的でした。現在福岡支部は、十一名の幹事の皆様にご協力をいただき運営をしておりますが、皆さん四十〜五十代の要職に就かれている働き盛りの方ばかりで、毎日の忙しい仕事の合間をみて、集客にご協力いただいております。そのため、同窓生のためになるいろいろな企画を考えてみても、十分な時間がとれず、なかなか実行できないのが実情ではあります。

その一つとして、福岡市は多くの大学があり、わが母校からも多くの学生が通学しております。この学生さんが是非同窓会に参加していただけるようにしたいと思っております。彼らが、福岡を代表する企業や役所にいる先輩の存在を知るだけでも、彼らのこれからの人生に大いに役立つと思うのですが、どうすれば来てくれるのか、なかなか妙案が浮かびません。今後、福岡支部が、八女中学、八女高校をご縁に、新旧様々な方との出会いのチャンスを与える場になればと念願しつつ、今後の支部運営をしてみたいと思っております。本年度の支部総会は九月下旬、昨年と同じ「八仙閣本店」にて開催予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

◆八女東部支部

第一回総会を開催

支部長 穂田 昭一郎 (高14回)
平成二十九年十月十四日、念願の八女東部支部第一回総会を黒木町「ぶじの里」で開催しました。当支部は星野村、上陽町、矢部村、黒木町の二村・二町を中心とした広範囲の集まりです。世話人一同、いったい何名の方に出席いただけるかと不安をいだきながらの事前準備でしたが、結果は総会に六十四名、続く懇親会に五十四名がご参集いただき、何とか合格点だろうと評価しています。

下川会長、別府校長からは八女中・八女高同総会や八女高校の現状・課題をお話しいただきました。八女東部支部発足の火付け役とも言える大塚副会長や久保大副会長のご臨席で総会の重みが増しました。また、平成三十年大同志会実行委員(高41回)の同総会PR活動は支部総会に華やかさと彩りを添えてくれました。八女東部支部会則は支部役員、八女の総会開催など原案どおり承認され、毎年中校歌の大合唱ではじまった総会は、八女高校歌で賑々しく終了しました。懇親会は総会会場近くの「一味万」で行いました。大先輩の松尾文郎氏(中36回)の元気なお話で目出度くスタートした会は大塚副会長の当支部発足に期待する挨拶と久保副会長の乾杯で宴会の部に突入。回顧談あり、現況報告あり、自己・他者紹介ありで騒々しく賑やかな中にも和気あいあいとした懇親会になりました。少ない予算でいので会の盛り上がりを感じましたが、出席者のご協力と味万(オーナーは馬場光広氏、高30回)のご支援で実に有意義で楽しい会にすることができました。

◆筑後支部

筑後支部だより

支部長 宮原 恭盛 (高18回)
昨年の十月に筑後支部総会が開催され、久保大支部長の後任として筑後支部長を承認されました。筑後支部は八女高校のお膝元でもあり、母校の発展・協力には同窓会として先陣を駆け、ご奉仕をと思つ次第です。いよいよ今年度は創立一〇〇周年です。十

年前は下川泰同窓会会長、久保大校長(当時)を中心に、一〇〇周年記念式典・記念事業が盛大に開催され、記念碑も堂々と校門南側に建立し、同窓生の愛校心を在校生に語り続けています。一〇〇周年記念事業としては、先ずは同窓会員にご支援を賜り、さまざまに開催させていただきますことを祈念いたします。ここで紹介ですが、私たち18回生は昭和四十一年三月にクラス五十六名で八クラス、計四四八名の卒業生です。入学時のあのギョウギョウ詰めの木造校舎が懐かしく想われます。毎年同窓会を開催していますが、

去年は七十歳の古希を迎え、参加八十名の同級生が紫の頭巾を被り、紫のチャンチャンコを着て水田天満宮で古希祈願祭を行い、とびうめ会館でお酒を酌み交わし、思い出のひと時を過ごしました。また残念な事に同級生四十数名が天国に旅立ったことを知りました。「もう、そんな年かな」とも語り合いました。気兼ねせず飲んで食べて語り合えるのが同窓生であり、毎年藤の花咲く四月頃は、一八会(いっぽばかり)の名称で観藤会を催し、風流に浸り楽しんでいきます。千の風になつて永久の旅立ちまで続ける一八会です。筑後支部同様に宜しく願ひいたします。なお今年の筑後支部総会は、十月二十七日(土)に開催いたしますのでご参加をお待ちいたします。

◆大木支部

支部報告

支部長 眞邊 泰則 (高16回)
大木支部では、平成二十九年支部総会を恒例の十一月第一土曜日(十一月四日)に、大木の湯「アクス」にて開催いたしました。今年度は来賓として、下川泰同窓会会長別府尚樹校長のご臨席を賜り、盛大に開催することができました。総会行事では、まず同窓会本部及び学校から現状報告が行われ、続いて行われた平成二十八年の事業及び決算報告、そして平成二十九年の事業計画と予算案については、原案のとおり承認されました。なお、役員改選では、眞邊泰則支部長が再任され、事業計画で承認いただきました第二回の親睦ゴルフコンペにつきま

しては、鹿北ゴルフクラブで開催いたしております。総会行事の後、福岡ソフトバンクホークス(株)前常務取締役、竹内孝規氏を講師に迎え、「ホークスよもやま話」と題してご講演をいただきました。講演では、王貞治会長や秋山幸二前監督、そして故根本陸夫監督の話があり、出席者全員が興味深く聞き入っていました。親睦会では、当番幹事である高41回生による大同窓会のチケット販売があるなど、会員相互の世代を超えた和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができました。(追記)大木支部の再設立にご尽力いただきました、北島壽様、川村範光様が体調を崩され、帰らぬ人となりました。お二人のご冥福をお祈りいたします。(事務局長 岡崎 斎(高27回)代)

◆久留米支部

日本武道の習いに思うこと

支部長 近藤 信夫 (高12回)
私は、八女中・八女高同窓会久留米支部支部長として、母校の入学式・卒業式・理事会等の参加の機会があります。校門を入ると、三年間お世話になった柔道場へまず向かい、古びた畳の上に立ち、青春時代の仲間と先生と共に研鑽した往年のひとつに思いを馳せています。私は柔道に精進し現在講道館柔道七段の身にあります。日本武道の精神及び習い、とも言うべき戦時中の戦いを通して感じたことを述べてみたいと思います。昭和二十年、硫黄島の戦いで米海軍司令官にまつわる話です。一月近く激戦を繰り広げ、日本軍二万一〇〇〇名、米軍も六八〇〇名の戦死者を出したと伝えられ、双方に多大の犠牲者を出しました。栗林中将は自決し、アメリカ軍が硫黄島を占領したのが昭和二十年三月十五日です。翌日三月十六日、摺鉢山の穴の中から、片足を失った日本陸軍少佐が降伏印のハンカチを掲げて出てきてこう言いました。「司令官はいないか。穴の中にはまだ有能な三十名の青年たちが残っている。彼らを日

本の為、世界の為に生かしてやりたい。私を殺して彼らを助けてほしい」と懇願したそうです。少佐を引見したレイモンド・スプールアンズ司令官は「お前も部下達も助けてやろう」と言ったのですが、彼は「サンキュー」と言つて絶命したそうです。その後、アメリカ軍は青年たちが残っている穴の中に煙草や缶詰を投げ入れたようにして、残された青年たちに穴から出てくるように勧めますが、彼らはそれに応えず抵抗を続けました。二ヶ月の抵抗の末、やがて何名かが餓死し、最後に残された者達は手榴弾で自決しました。

その爆発の際、司令官が穴の場所に飛んでいくと、穴の入り口に英語と日本語で書かれた手紙が置かれていました。「閣下の私達に対する御親切な御好意、感謝激に堪えません。閣下より頂きました煙草も肉の缶詰も皆で有り難く頂きました。お勧めによる、降伏の儀は日本武道の習いとして応ずることが出来ません。もはや水もなく食もなければ十三日午前四時を期して全員自決して天国に参ります。終わりに、貴軍の武運長久を祈つて筆を止めます。昭和二十年五月十三日 日本陸軍中尉 浅田 真一 米海軍司令官レイモンド・スプールアンズ大將殿 この平和な今では、戦争の話すらタブーになっているように思えます。戦後退官した司令官は以下のような言葉を残しています。「アメリカの青年たちよ。東洋には素晴らしい国がある。それは日本だ。日本には、君たちが想像もつかない、立派な青年がいる。ああいう青年がいれば、やがて日本は世界の盟主になるに違いない。奮起せよ」彼は、この言葉を伝えるべく全米各地を講演して回りました。私達は、この言葉に恥じないように日本人としての誇りを持ちつつ、本校の生徒達にも「文武両道」を通して人としての生きざまを継承してほしいと思つている次第です。

◆関西支部

関西支部だより

支部長 高橋 政一 (高18回)

【青春時代に帰りますか】のタイトルを掲げ、平成二十九年度の関西支部総会・懇親会を、十一月十八日、例年通り「新大阪ワシントンホテルプラザ」にて開催いたしました。当日は、八女高校原口教頭先生、同窓会から渡辺・大塚・相良副会長、城戸幹事長を迎え、平成三十年の創立一〇周年への取り組み等についてお話を伺いました。母校も少子化の影響を受ける中、来年度の入学定員は六クラスを裁うように維持できるそうです。私の時代の八クラス、定員四四〇名とは大きな隔たりがあり、改めて少子化の影響を考えさせられました。



例年通り、懇親会では「往時の八女中・八女高のDVD上映」、郷土の名産品の抽選等で盛り上がり、また、平成三十年度の大同窓会幹事団の皆さん(高41回)、次年度当番の42回生の皆さんによる、大同窓会のプレゼンテーションやチケット・同窓会グッズの販売も行われました。今回は、久しぶりに七十名の参加で大いに盛り上がりましたが、同窓会新聞で知り、初めて参加された中37回の野口武文氏、野球部OBで高16回の深町繁蔵氏、高18回の多川敏孝氏、羽方一氏等、関東からの参加もあり、旧交を温めた会でした。

◆八女支部

八女支部総会開催

支部長 北島 正道 (高21回)

平成二十九年度の支部総会を、恒例のごとく、十一月二日曜日(十一月十二日)に「いわ井」にて開催いたしました。来賓として、同窓会本部より大塚高典副会長をはじめ、筑後支部の宮原支部長、立花支部の朽網支部長、広川支部の井上支部長、学校より別府尚樹校長をお迎えして、盛大に開催いたしました。

まず総会前の講演会では、八女市在住の北島力様(高22回)から「八女・福島のみちづくり二十五歩みから見えてきたもの」と題して、八女福島の街並み「重要伝統的建造物保存地区」(「伝建地区」)を選出)を中心とした町づくりについて、熱く語りついでいただきました。その中でも、講師自身自ら二〇一六年十月に八女市福島の修理した町屋に移住され、街並み第二世代にバトンを渡すべく日々の活動に邁進されていることには、真に頭が下がる思いがしました。



講演後は、会員による支部総会が盛会裏に開催され、出席いただいた来賓の方々より、まず同窓会の大家副会長から、来年度(平成三十年十一月)に予定されている学校創立一〇周年事業への取組協力依頼の件や同窓会が抱えている問題点について、学校からは別府校長より学校の現状報告や学生の活躍状況などが紹介されました。同窓会の本来の目的でもある会員による懇親会では、旧友との再会や地区内に住む会員との語りをはじめ、今からの八女中・八女高同窓会を担っていく若い会員の皆さんを中心に、楽しい宴が時間を忘れてしまうくらい続けられました。

◆広川支部

第57回広陽会総会開催

支部長 井上 利明 (高17回)

今年も恒例の広陽会総会を二月十一日(建国記念の日)に広川町の料亭「扇屋」で開催いたしました。日時、会場は毎年変わりますが、魅力ある講演と企画で趣向を凝らして多数の参加をお待ちしています。総会では下川泰(高2回)同窓会長、別府尚樹校長先生、宮原恭盛(高18回)筑後支部長、北島正道(高21回)八女支部長お

よび朽網英文(高21回)立花支部長にご挨拶・ご臨席をいただきました。校長先生による八女高生徒の海外(アメリカ東海岸)研修およびクラブ活動の現状などを報告いただきました。また、下川同窓会長は八女高校の現状と将来の姿について熱く語られました。その趣旨は、定員を減らすことなく八女高校の資質を高めて維持することです。その一環として昨年の同窓会理事会で広川支部に強い関心を持たれ、副会長を広川支部から推薦することを提案していただきました。承りました。私の知る限り(過去三十七年間)広川支部からの副会長は初めてであります。その適役は広川町の将来を担う人材そして実業家でもある現広陽会副会長の野田成幸氏(高25回)です。今後の活躍が期待されます。



会の進行としては先ず物故会員の弔い、黙とうを唱い、「暁」と「ときわの森」を高らかに斉唱、行事および会計報告が事務局長の藤島弘義氏(高31回)より行われた。恒例の講演会を行いました。講演は宮原恭盛(高18回)筑後支部長・水田天満宮宮司に「水田天満宮と尊攘運動」なるテーマでお願いしました。水田天満宮と真木和泉の関連など地域の歴史についての興味深い講話でした。懇親会では恒例の同窓会総会の当番役員(高41回)さんによるチケット頒布があり、来賓の方、支部会員および同窓会の当番役員さんを囲んで世代を超えた交流が行われました。これらの親睦が老若男女広陽会会員の絆の深まりを示していることを実感しました。

◆立花支部

支部総会とまちづくりネットワーク代表の講演

支部長 朽網 英文 (高21回)

立花支部では、支部総会を例年通り三月の第一日曜日午後五時より、「矢部川城」で行いました。今回も筑後地区の他の支部より花を添えていただきました。まちづくりネットワーク八女の北島力氏(高22回)に講演をお願いし、「福

島のまちづくり」と題して、八女の地域づくりのお話をしていただき、盛会に終えることができました。二月には立花町で、八女高校の恩師である津留誠一先生による「田崎画伯を育んだ八女の文化力」との題で講演がありました。画壇の話や卒業生である松永伍一詩人(高1回)の話など興味深く、とても楽しく聞かせていただきました。以上、立花支部の報告とさせていただきます。

◆大牟田支部

会員減少に歯止め掛からず

支部長 下川 斌弘 (高11回)

私たち大牟田支部は、毎年四月の第三金曜日を支部総会の日と決め、同窓会長、八女高校校長、その年の同窓会総会実行委員長を招いて開催しております。今年四月二十日(金)に下川泰会長、別府尚樹校長、中村実行委員長にご出席いただき、会長からは現在の同窓会の活動の報告を、校長先生からは生徒の部活動や進学状況などの報告をしていただき、実行委員長からは総会後の懇親会の入場券を販売していただきました。その後は懇親会です。酒を酌み交わしながら、和気あいあいのうちに一時を過ごすことができました。

大牟田市の人口は、昭和三十五年(四十年)にかけては二十二万人をはるかに超えていましたが、今日現在では十二万人を切っています。市の人口が減少していく中、私たち支部会員も毎年、一人、二人と減っていきます。亡くなる会員や、引越され県外などに子供さんたちと最後の人生を楽しまれる方、健康が今一つの方など、七年前、新たに支部の活動が再開された時は、八十名の会員を数えることが出来ました。今日では五十五名の会員の安否を確かめるにとまっています。会員が減少していく理由はいくつもありますが、増加する要因が少ないのです。何かいい方法はありませんか?たぐさんの自治体で、特に首長の選挙公約で人口の増加活動と呼びかけますが、人口が増えたという自治体を見たことはありません。「炭鉱跡の世界遺産」も今のところ、効果は無いようです。

COME TOGETHER!

平成三十年度大同窓会実行委員会
 実行委員長 中村 太一 (高41回)

本日は八女中・八女高大同窓会懇親会「COME TOGETHER」に多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。この日を迎えることができたのも、下川会長をはじめ同窓会役員の皆様、各支部長の皆様、別府校長をはじめとする学校関係の皆様、前話の時に大変お世話になりました40回生の先輩方、一緒に大同窓会を作り上げてくれた42回生の後輩たちなど、多くの同窓生の皆様方のご指導、ご支援のおかげさまでと思っております。心より感謝申し上げます。本日にありがとうございました。

何も分からないまま始まった大同窓会のお世話。今日という日を迎えるまで、あつという間の二年間でした。本日にやり遂げることができたか不安でしたが、同級生が仕事や家庭など大変忙しい中でも、どうにか時間を調整してくれて集まり、与えられた役割を果たしてくれたおかげで素晴らしいものができたと思っております。本日に同級生の厚き友情に心から感謝です。

年に一度の再会の場である大同窓会が、ご来場いただいた皆様にとって素晴らしい貴重な時間となるためにしっかりとおもてなしの心をもって務めさせていただきます。これからも担当年度の後輩たちが独自に考え工夫した大同窓会となり、それを暖かく見守り支援する同窓生の素晴らしい関係が生む、母校を想う気持ちの集結が母校を応援する大きな団結の力となりますことを祈念しご挨拶とさせていただきます。本日は本日にありがとうございました。

第四十二回 泉ヶ丘ゴルフコンペ

平成三十年度大同窓会実行委員会
 事業委員長 大坪 貴光 (高41回)

今年で四十二回となります泉ヶ丘ゴルフコンペを四月二十九日に八女市上陽ゴルフ倶楽部にて行いました。二四六名の同窓生の皆様にご参加いただき、今年もゴルフ場を貸切るという大規模なコンペを盛大に行う事が出来ました。当コンペは八女高奨学金のチャリティーの趣旨もあり、たくさんの募金が集まりましたことに感謝申し上げます。さて、思い返せば約一年前に事業委員会を立ち上げ、二十二名のメンバーで不安を抱えながらスタートしたことを今でも覚えております。しかしながら、泉ヶ丘会長であります野田直亮先輩(高13回)のご指導の下、そして、前年度事業委員長を務められました畑田勇二先輩(高40回)にいろいろとアドバイスや相談に乗っていただき、不安が楽しみに変わりました。委員会メンバーの熱い思いも企画準備に込められ、順調に進める事が出来ました。

今回は昨年まで八女高校食堂で行われておりました表彰式を、当ゴルフ場で開催させていただきました。メリツ、デメリツトはあったかと思いますが、迅速かつ快適な表彰式が出来たのではないかと思います。今年、入賞商品を地元の特産品を中心に、家族の方と喜んでもらえるようなものを考え、会場はカーペラを使ってディスプレイするなど、装飾にも力を入れました。その他に、お楽しみ抽選会や、優勝の方には「手作りのおす玉でお祝い」も、私たちならではなかったのではないのでしょうか。本年度も事故無く終了しました。私たちが使命はこれで終わりました。ありません。この歴史ある泉ヶ丘ゴルフコンペを先輩方から受け継ぎ、次年度も沢山の皆様にご参加いただけるよう、次の世話役でありたいと思っております。本日は本日にありがとうございました。

最後にになりましたが、丸一日という長

丁場の中、「笑顔」でご協力いただいた41回生の仲間たちに感謝すると共に、このような貴重な経験をさせていただき、たくさんの方と出会えたことに重ねて感謝申し上げます。来年は、枠があれば是非41回生の仲間と参加する側で先輩方として42回生の皆様とお会いできればと思っております。

そしてこれからも末長く泉ヶ丘ゴルフコンペが行われますことを祈念し、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

出逢いに感謝

平成三十年度大同窓会実行委員会
 企画委員長 井上 幸津美 (高41回)

一〇周年という節目の大同窓会に向け、私たち41回生が集結し、早いもので二年が経とうとしています。

ここ数年、私は部活の先輩から大同窓会のチケットを購入(参加はかなわず)していたため、卒業後三十年目で当番幹事が回ってくる大同窓会というものを何となく知っていました。

：が、聞くやるとでは大違い。前話時、40回生企画委員の先輩の計らいで昨年の大同窓会に同席させていただきました。イメージは出来あがったものの、実際、活動を始めるのと分からないことばかり。先輩に相談に乗っていただき、実行委員会に知恵を出し合い、先生、在校生にも協力してもらい、紆余曲折を経てやっとこの日を迎えることができました。

これまでの八女中・八女高の歴史、これからの「八女高(やめたか)」。どちらも大切に思い企画を進めてまいりました。他の学校の大同窓会にはない、青春を過ごした母校の体育館で同窓生に会える大同窓会。世代を越え、同じ空間、同じ時間を共有できる大同窓会。

「楽しかった」「また、来年ね」と思っていただけなら幸いです。私達41回生に団結するきっかけを作っていたいただいた大同窓会に感謝いたします。

face to face 旧知の新知に逢う

平成二十九年度大同窓会実行委員会
 実行委員長 龍 俊介 (高40回)

二年間の実行委員会の成果が認められ、先輩や後輩に喜んでもらえて、そして同窓の仲間が達成感に満たされたあの時からもう一年が経とうとしています。この大同窓会実行委員会のお世話役があったおかげで友情がさらに強い結びつきが生まれました。

二年前に支部総会に参加させていただった時は知らない先輩ばかりでしたが今ではかなりの先輩たちと知り合いになりました。この出会いも同窓会がなければありえないことで本日にあったことでした。

月に一度は顔を合わせていた仲間とも今では殆ど会うこともなくなりました。しかしあの二年間共に力を出して作り上げた同窓会のおかげで何年かわなくてもつい昨日も一緒にいたかの様に話せる関係が出来上がりました。

大同窓会の挨拶でも紹介しましたが「人間は一生のうち、あうべき人は必ずあえる。しかも一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」我々の出合いは全て必然なんだと感じます。

face to face 旧知の新知に逢う

私たちの永遠の合言葉です。

最後になりましたが一〇〇年以上の歴史を持つ八女中・八女高の素晴らしい仲間たちがこれからも各方面で活躍することを祈念します。ありがとうございました。



「時は来た！」

平成三十一年度 大同窓会実行委員会
 実行委員長 馬場 慎哉(高42回)

「いつか来る、いつか来る」と分かっていながらも、どこか遠い先の事のよう
 に現実逃避していた。そんな私を含む
 42回生にも待たなしたの大同窓会お
 世話の時期が目前に迫りました。

私自身、一年前の大同窓会初参加に
 始まり、これまで前世話として聞ら
 せていただいた中で多くの事を学び、考
 えさせられました。その一つ一つはと
 てもこの誌面には収まりませんが、い
 よいよ来年はその学びや考えを表現す
 る場となります。

私達の母校も二〇一八年には二〇周
 年を迎え、県内でも有数の伝統校とし
 て歴史を刻み続け、時代は明治・大正・
 昭和・平成と移り変わり、そしてまた
 新しい時代の幕開けを迎えます。

そこで今回私達はテーマを『刻(と
 き)をつむぐ』これまでもこれからも』
 に決定しました。時代は移り変われど
 も我々は『質実剛健』の名の下に同じ
 根っこを共有し、世代を超え母校に参

集するこの伝統を受け継ぎ、これから
 も繋げていきたいという想いを込めま
 した。そしてポスターにはスクールカ
 ラーに似た、九州を代表する豪華列車
 『ななつ星』をイメージさせるボルドー
 色を採用し、わが母校のますますの発
 展を願う同窓生の想いを表現しました。

尚、今回、本部の意向を受け、チケット
 代を一〇〇〇円値上げさせていただ
 きました。「母校の魅力ある学校づく
 りの更なるサポート」と「同窓生が母
 校に一齐に集う伝統的な同窓会の継続」
 の為です。どちらも私達団塊ジュニア
 世代後に始まり、そして加速していく
 少子化に伴う生徒数減少に起因してお
 りますので、手遅れにならないうち
 との苦渋の決断をいたしました。
 将来、この決断は間違いでなかった
 と思っただけできるよう、精一杯の準
 備をして皆様をお迎えしたいと思
 いますので、どうぞ宜しくお願いいた
 します。

「卒業三十年後の、 約束された学び」

平成三十一年度 大同窓会実行委員会
 副実行委員長 志岐 直美(高42回)

代々受け継がれてきた大同窓会。昨
 年、初めて参加させていただきました。
 母校の発展を願い、沢山の人が関わり
 合いながら作り上げてこられた事が伝
 わる空間に、何ともいえない感動を覚
 えたことを振り返ります。

私たち42回生も、先輩方の思いと伝
 統を引継ぎ、皆が同窓生の方々の喜ぶ
 顔を思い浮かべながら準備を進めてお

ります。

泉ヶ丘での三年間を経て、あの頃の
 優しさ・賢さ・思いやりやユーモアに、
 その後の経験や行動力が備わった多く
 の頼もしい同級生と関わりあわせてもら
 い、八女高校を学び舎として選り卒業した
 ことを、強く誇りに思います。大同窓
 会に向けて、それぞれが知恵を出し合
 い、時には意見をぶつけ合いながら進
 める輪の中にもいると、多忙で足早に過
 ぐる日常の中にも活かせる、様々な気
 づきや発見があり、大同窓会のお世話
 をさせていただくことは、母校が準備
 してくれた卒業三十年後の学びなので
 はないかと、感じています。

質実剛健の精神のもと、同じ場所で
 成長し刻をつむいだ仲間たちが一堂に
 会す大同窓会。まだ知らない同窓生の
 方もいらつしやると思っています。長い間
 そつぽを向いて忘れかけていたとして
 も、母校と友は、温かく迎え入れてく
 れます。ほんの少しの繋がりでいい
 です。「一緒に同窓会に行こう」の声か
 けで、皆で笑い合う時間をもつことが
 できたら嬉しいです。

そして、これまでも、これからも
 この大同窓会が、八女高校のさらな
 る発展と、同窓生の皆様の明日からの
 活力となる場所の一つとなればと、心
 から願っています。



「先輩後輩との出会い、仲間との再会」

平成二十九年大同窓会実行委員会
 会場委員長 中島 輝(高40回)

この度は、ご縁もあり会場委員長を
 させていただきました。

今まで、大同窓会に一度も参加した
 ことがなかったもので、初めて、これ
 まで先輩方からずつと役を引き継がれ
 てきたことを知りました。

私達も39回生の先輩から引継ぎをさ
 せていただき準備にかかりましたが、
 当初暗中模索の状態で何から始めれ
 ば：という感じでしたが、先輩方にご
 相談し、委員で集まり少しずつ準備を
 してきました。

そして、いよいよ本番の日を迎えま
 した。当日は、一五〇名ほどの同期の
 仲間が集まってもらい、ぶつつけ本番で
 はありましたが、おもてなしの気持ちで
 接待させていただきました。

本番中は会場を走りまわることしかで
 きませんでした。各部署、担当の人達
 に頑張ってもらい無事閉会を迎えるこ
 とができました。

そして、お見送りの際、先輩方からの
 温かい言葉や笑顔で、それまでの疲れが
 飛んでいきました。仲間と共に喜んだの
 が昨日のことのようです。

八女中・八女高大同窓会は、実行委員長が、
 先輩から後輩へ引き継がれ、準備・会場
 設営・運営を同期生で行う。それは、と
 ても価値があることで、歴史だと思
 います。私が、それにかかわれたことは、とて
 も光栄で忘れられない出来事でした。

このような貴重な機会を得て、沢山の
 先輩や後輩と出合い、また、仲間と再
 会できました。これは、私の宝物です。
 最後になりましたが、今後益々の八女中
 八女高大同窓会の繁栄を祈念いたします。

平成29年度
高校70回卒業生
進路実績

70回生の軌跡★昨年を上回る快挙達成!!
☆国公立大学…現役合格98名!!(準大学含む)
 九州大学共創学部、佐賀大学医学部医学科
☆私立大学 今年も大健闘! 昨年度実績を上回る!
 関東:青山学院・明治・法政、関西:同志社・立命館
 福岡大・中村学園大とともに過去5年間で最高の合格率達成!
☆公務員に強い八女高校は今年も健在! 国家・地方ともに躍進45名

平成29年度 部活動報告

◎文芸部

第41回全国高等学校総合文化祭文芸専門部俳句部門
 小嶋紳介(3年) (8月1日~8月4日 於:宮城県)
第7回牧水・短歌甲子園(8月19日、20日 於:宮城県)
 小嶋紳介(3年)
 木村一平(2年)
 中尾太一(1年)

◎剣道部

第34回九州高等学校選抜剣道大会(2月9日~11日 於:福岡県)
 女子個人 倉ノ下萌香(2年)

◎水泳部

全九州高等学校選手権新人水泳大会(9月30日~10月1日 於:鹿児島県)
 50mバタフライ 原佑吏(2年)
 50m平泳ぎ 神代大輝(2年)
 50m平泳ぎ、200m個人メドレー 久保理(1年)
 50mバタフライ、200m個人メドレー
 江田麻唯子(1年)
 50mバタフライ、100mバタフライ
 島崎由希(1年)
 400mメドレーリレー
 島崎由希(2年)、小宮千里(1年)、
 江田麻唯子(1年)、久保理(1年)

◎放送・弁論部

九州高文連文芸大会弁論部門(12月16日 於:沖縄県)
 久保田耕陽(2年)

【運動部】

サッカー部、バスケットボール部(男子・女子)、
 バレーボール部(女子)、水泳部、剣道部、弓道部、
 陸上競技部、卓球部、総合運動部(空手)

【文化部】

吹奏楽部、書道部、自然科学部(生物班)、放送弁論部

平成30年度入試等合格者数一覧

国公立大学:準大学含む	関西外国語大学	1	専門学校等
岡山大学	大阪総合保育大学	1	久留米大学医学部 附属臨床検査専門学校
九州大学	安田女子大学	1	4
九州工業大学	広島女学院大学	1	嬉野医療センター 附属看護学校
福岡教育大学	西南学院大学	41	1
佐賀大学	福岡大学	78	他17校
長崎大学	中村学園大学	27	29
熊本大学	久留米大学	36	海外
宮崎大学	福岡工業大学	3	カンザス州立大学
鹿児島大学	九州産業大学	35	1
横浜市立大学	福岡女学院大学	7	公務員等
広島市立大学	国際医療福祉大学	12	国家一般
山口東京理科大学	福岡女学院看護大学	1	税務職
下関市立大学	聖マリア学院大学	6	東京特別区
北九州市立大学	帝京大学	3	福岡県職
福岡県立大学	純真学園大学	6	福岡市職
福岡女子大学	筑紫女学院大学	7	筑後市職
長崎県立大学	久留米工業大学	4	八女市職
熊本県立大学	第一薬科大学	2	みやま市職
宮崎公立大学	日本経済大学	2	広川町職
宮崎県立看護大学	九州女子大学	1	大木町職
名桜大学	西南女学院大学	2	福岡県警
☆防衛大学校	保健医療経営大学	1	佐賀県警
(人文9名、理工10名)	西九州大学	8	海上保安学校
私立大学	崇城大学	11	入国警備官
北海道医療大学	九州看護福祉大学	9	東京消防庁
東北福祉大学	熊本保健科学大学	1	久留米広域消防
青山学院大学	九州保健福祉大学	3	自衛隊:航空学生
明治大学	長崎総合科学大学	2	一般曹候補生
法政大学	長崎国際大学	2	自衛官候補生
女子栄養大学	別府大学	2	就職:日本郵便
芝浦工業大学	日本文理大学	1	
日本大学	立命館アジア太平洋大学	3	
東海大学	短期大学		
昭和音楽大学	関西外国語大学短大部	1	
同志社大学	中村学園大学短大部	4	
立命館大学	福岡工業大学短大部	1	
同志社女子大学	九州大谷短期大学	4	



全国大会出場

九州大会出場

県大会出場

編集後記

創立一〇〇周年からあつという間の十年でした。
 同窓会財源も厳しい状況の中、今年一〇〇周年にあたり、「八女高校サポート基金」が設立されました。
 次世代を担う後輩達を応援したいという想いから、早急に電子黒板等を設置し、教育環境を整えることを最優先に考えています。
 「次の十年のために、今できることを少しずつ…」
 伝統ある母校の発展と同窓会継続のために、皆様のご支援をお願い申し上げます。
 最後になりましたが、多くの方々のご協力で本号を発刊することができました。
 ありがとうございます。

八女中・八女高同窓会副幹事長 同窓会新聞編集委員長
 石橋 啓子(高34回)

八女高大運動会
 平成30年6月9日(土)
 テーマ 軌繋ぎづな

